

令和3年度 全国学力・学習状況調査結果及び分析・対策（松江市立雑賀小学校）

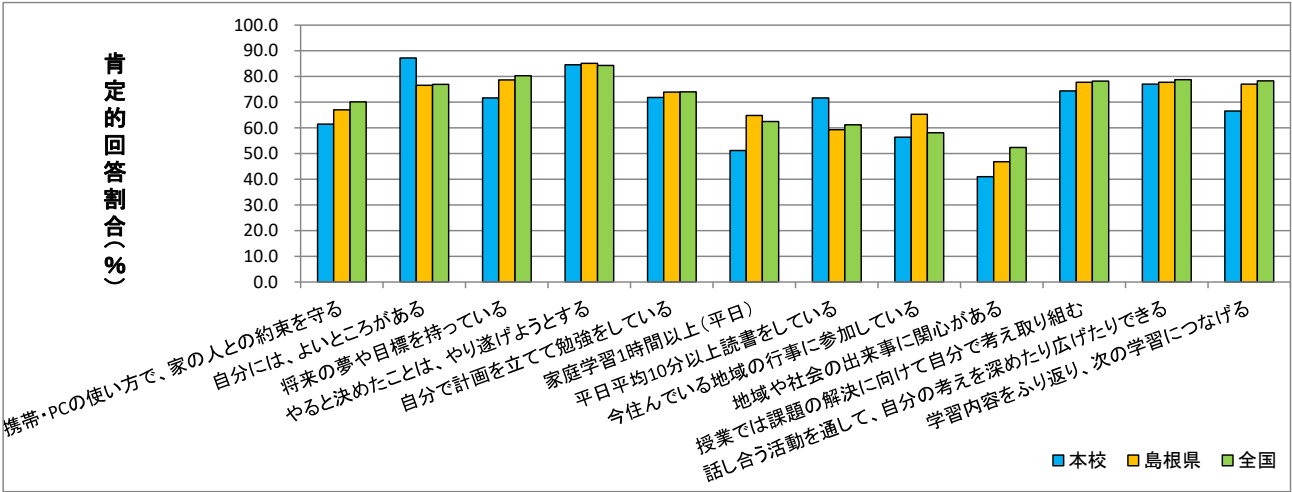
(1) 学力調査結果から見られた傾向

	成果と課題(○: 成果, ●: 課題)	対 策
国語	○文章の内容の中心となる事柄を把握する問題は、よくできている。 ○理由を明確にしなが、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する問題の正答率は、県平均より高い。 ●主語と述語との関係を捉える問題の正答率が低い。 ●話すこと・聞くことについての問題の正答率が低い。	・主語、述語、修飾語の働きについて、文の構成を図示したり短文を作ったりし、話し言葉にも気を付けるように指導する。 ・話し手の意図を考えながら最後まで聞くこと、また、自分の考えを資料を活用して相手に伝わるように話すことを継続的に指導する。
算数	○速さについての問題は、よくできている。 ○基準量を1とした時に比較量が示された小数に当たる理由を記述する問題の正答率は、県平均より高い。 ●データの活用問題の正答率が低い。 ●商が1より小さい場合の関係を式に表す問題の正答率が低い。	・算数だけでなく、身の回りの事象について、表やグラフからデータの特徴や傾向を読み取ったり、自分たちで集めたデータをもとに考え合ったりする学習場面を多く持つようにする。 ・式をたてる根拠となる絵・図を書くことを大切にしながら解いていくように指導する。

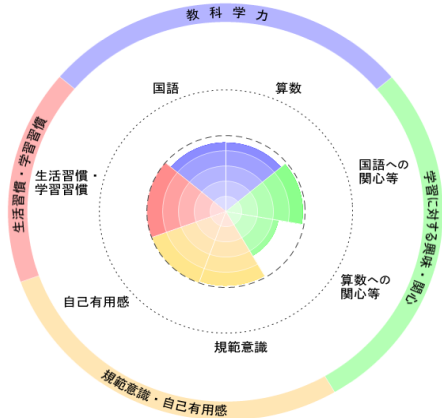
(2) 生活意識調査から見られた傾向

成果と課題(○: 成果, ●: 課題)	対 策
○自分にはよいところがあると思っている児童の割合が高い。 ○読書が好きな児童の割合が高い。 ●携帯やスマホの使い方の約束を守っている児童の割合が低い。また、テレビゲーム等をする時間が長い児童の割合が高い。 ●家庭学習をする時間が短い児童の割合が高い。	・メディア接触について、児童へのメディア利用の指導とともに、家庭への働きかけ(メディアコントロールウィーク、たより、メディア授業公開等)を進める。 ・授業と家庭学習が結びつく内容にし、自分で課題を設定して計画的に学習する自主学習の習慣を身に付けさせる指導を重ねて行う。

(3) 意識調査(学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています)



(4) 学力調査及び生活意識調査から見られた傾向(破線は全国平均)



(5) その他、今後特に力を入れて取り組むこと

・授業において学び合いの工夫をし、様々な考えから自分の考えを深める授業となるよう研究を進める。
・学びを支える言葉の力を育むため、語彙の獲得に向けた読み書き指導の徹底と学校図書館の利用充実など、継続した指導を行う。

【受検者数】 37 名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示。